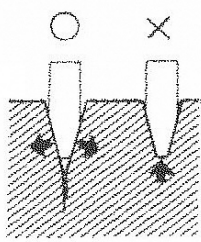


《2020/12/27 第8回江戸城石垣石丁場跡セミナー》

なぜ下多賀から石が切り出されたのか—近世初頭の雇用対策事業—

慶應義塾大学 中島圭一

はじめに一どのようにして石を矢で割れるのか



打ち込んだ矢が左右に押し広げる力を使って、石を裂く

堅い安山岩や花崗岩を効率よく割る手法

やわらかい凝灰岩や滑石の場合は溝を掘って切り出す

矢穴 山川均編『寧波と宋風石造文化』汲古書院

近世初頭の石丁場の矢穴の特徴

まるで「切り取り線」のような矢穴



熱海市下多賀 中張窪石丁場



小豆島 豆腐石丁場

硬質の岩にノミで矢穴を掘るのは大変で、専門の石工は少ない矢穴で効率よく割りたい

→矢穴の数を増やすのは素人でも割れるようにするため

想定される石丁場の作業環境

少数の石工が矢穴の位置・大きさ・数などを指示→未熟練の作業員が矢穴を掘る

矢穴の数の増加は作業員の人数でカバー

→大量の単純労働者はどこから供給されたか？

近世初期(慶長・元和年間)の公的な大普請

年次	西暦	普請場	年次	西暦	普請場
*慶長6	1601	近江膳所城	慶長19	1614	越後高田城
*同 6	1601	京都二条城	同 19	1614	尾張清洲城石垣
*同 7	1602	山城伏見城	元和2	1616	摂津大坂城
*同 7	1602	美濃加納城	*同 2	1616	下野日光東照宮
同 8	1603	江戸市街	*同 2	1616	大和郡山城
同 9	1604	近江彦根城	*同 3	1617	摂津高槻城
同 9	1604	山城伏見城	*同 3	1617	山城伏見城
同 9	1604	江戸城資材調達	同 4	1618	江戸城西丸南堀等
同 9	1604	江戸貝塚青松寺辺建設	同 4	1618	江戸城半蔵口
同 10	1605	山城伏見城本丸	*同 4	1618	摂津尼崎城
同 10	1605	江戸城用石綱船	同 5	1619	摂津大坂城
同 11	1606	江戸城	同 5	1619	江戸城大手・桜田間
同 11	1606	山城伏見城石垣	*同 5	1619	播磨明石城
同 12	1607	駿河駿府城	同 6	1620	摂津大坂城
同 12	1607	江戸城天主台等	同 6	1620	江戸城大手門石垣
同 13	1608	丹波篠山城	*同 6	1620	大和郡山城
同 15	1610	尾張名古屋城	*同 6	1620	備後福山城
同 15	1610	丹波亀山城	*同 7	1621	下野日光東照宮奥院他
同 16	1611	江戸城西丸	同 8	1622	江戸城本丸他
*同 16	1611	禁裏	同 9	1623	摂津大坂城
同 17	1612	江戸舟入場	同 9	1623	京都二条城
同 17	1612	京都二条城	*同 9	1623	山城伏見城
同 19	1614	江戸城	*同 9	1623	山城淀城

近世初期の大普請

江戸幕府は発足直後から相次いで大規模普請を実施

その前の豊臣政権も大坂城築城・聚楽第建造と京都改造・伏見城築城など

→大量の単純労働者の供給源は天下統一に伴って生まれた余剰労働力
…天下統一で失われた稼ぎ場と言えば戦場か

表はいずれも藤木久志『雑兵たちの戦場』

朝日新聞社

上杉謙信の関東出兵パターン

	出兵(年)	帰国(年)	滞在期間(月)	季節	型
①	永禄3 (1560)	永禄4 (1561)	8—6	秋—夏	▲
②	同 4 (1561)	同 5 (1562)	11—3	冬—春	▲
③	同 5 (1562)	同 6 (1563)	11—6	冬—夏	▲
④	同 6 (1563)	同 7 (1564)	12—4	冬—夏	▲
⑤	同 7 (1564)	同 7 (1564)	11—12	冬—冬	▽
⑥	同 8 (1565)	同 9 (1566)	11—3	冬—春	▲
⑦	同 9 (1566)	同 10 (1567)	12—5	冬—夏	▲
⑧	同 12 (1569)	元亀1 (1570)	11—4	冬—夏	▲
⑨	元亀1 (1570)	同 1 (1570)	9—11?	秋—冬	▽
⑩	同 2 (1571)	同 3 (1572)	11—4	冬—夏	▲
⑪	天正2 (1574)	天正2 (1574)	1—5	春—夏	★
⑫	同 2 (1574)	同 2 (1574)	9—12	秋—冬	▽

●参考① 北信濃出兵

①	弘治1 (1555)	弘治1 (1555)	7—閏10	秋—冬	▽
②	同 3 (1557)	同 3 (1557)	4—5?	夏—夏	★
③	永禄4 (1561)	永禄4 (1561)	8—9?	秋—秋	▽
④	同 7 (1564)	同 7 (1564)	7—9?	秋—秋	▽
⑤	同 8 (1565)	同 8 (1565)	7—10?	秋—秋	▽

●参考② 北陸出兵

①	永禄3 (1560)	永禄3 (1560)	3—3	春—春	★
②	同 9 (1566)	同 9 (1566)	6—7	夏—夏	★
③	同 11 (1568)	?	3—?	春—?	★
④	同 12 (1569)	同 12 (1569)	8—10	秋—冬	▽
⑤	元亀2 (1571)	元亀2 (1571)	3—4	春—夏	★
⑥	同 3 (1572)	天正1 (1573)	8—4	秋—夏	▲
⑦	天正1 (1573)	同 1 (1573)	7—8	秋—秋	★
⑧	同 4 (1576)	同 4 (1576)	3—4	夏—夏	★
⑨	同 4 (1576)	同 5 (1577)	9—3	秋—春	▲

(▽=短期年内<秋—冬>型、▲=長期越冬<秋冬—春夏>型、★=そのほか不定期型)

<注>

善積美恵子氏「手伝普請一覧表」

『学習院大学文学部研究年報』15、1968年)による。

なお*印は白峰旬氏の論文①②による。

①「慶長・元和・寛永期の近畿圏における諸城築城について」

『紀尾井史学』4、1984年)

②「元和・寛永期の公役普請について」

『日本歴史』562、1995年)

戦国大名はなぜ戦うか

越後の上杉謙信の関東出兵は晩秋～春・夏の越冬型が多い

→実は冬場の口減らし

越後は二毛作が不可能

端境期の春を生き延び、畠作物が出回る

夏まで食いつなぐのが課題

「生きてるだけで丸もうけ」の中世

中世の人々はしばしば飢饉に直面

蕨の根を掘るなど食糧確保

「人ノカツエ死ル事無限。ハラヒ(蕨)ヲ弐月ヨリシテ五月マテホリ申候。大カイ(概)、ハラヒニテ物ヲ作り申候」(『勝山記(妙法寺記)』天文20年(1551)条)

餓死を免れるために奴隷となることも

「我らむすこ、とくあみと申、歳十四に罷成候、永代さうてん(相伝)ニまいらせ候をき候。当年ハキゝぬ(飢饉)に御やしない候事、御大儀候ところに、御米六斗五升御ふち候。目出度候」(天文21年(1552)3月12日二郎三郎証状『清末文書』)

戦場は稼ぎの場

掠奪で稼ぐ

「国(和泉守護)より被押寄候て、大名を召捕、宅を焼、資財・雑具・牛馬等悉濫妨候へハ…」(『政基公旅引付』文龜元年(1501)9月19日条)

捕虜の身代金

「去程ニ男女ヲ生ケ取りニ被成候テ、悉ク甲州エ引越申候。去程ニ二貫・三貫・五貫・拾貫ニテモ身類アル人ハ承ケ申候」(『勝山記(妙法寺記)』天文15年(1546)条)

捕虜を奴隷として売り飛ばす

「(永禄9年=1566)小田開城。カゲトラ(上杉謙信)ヨリ御意ヲモツテ春中人ヲ売買事、廿銭・卅弐(銭?)程致シ候」(『別本和光院和漢合運』)

戦争奴隷は海外へも輸出

「(豊臣秀吉の使者は)ポルトガル人が多数の日本人を買い、それを奴隷としてその国に連れ行くは何故であるか、等の質問をなした……(イエズス会宣教師コエリヨは)ポルトガル人が日本人を買うことは、日本人がこれを売るからであって、パードレ達はこれを大いに悲しんでおり、これを防止するためできるだけ尽くしたが、力が及ばなかった……(と答えた)」(1587年イエズス会日本年報)

豊臣秀吉の朝鮮侵略=国内の戦場に代わる稼ぎ場の創出

おわりに—近世初頭の雇用対策事業

天下統一による戦争の消滅→戦場を稼ぎの場としていた人々が大量に失業

……社会不安の種：実際に大坂の陣へは多数の牢人が集結

海外に戦場を創り出す秀吉の試みは失敗

→大規模な城郭普請には権力の誇示などとともに雇用対策の側面もある

—幕府のほか、全国各地の大名も城郭建設・修理

熟練の石工の指揮の下、下多賀で石材を切り出した単純労働者たちは、戦場という稼ぎの場を失った人々